



日本を夢見たゴッホ

「東京旅・美術館巡り①」

絵の素養は全くな
い。というより無関心
であった。それが曲が
りなりに興味を持ち
始めたのはヨーロッパ
ツアーに参加してから
である。

ツアーのコースに必
ずといていいほど美
術館が含まれていた。
ゴッホのひまわりを最
初に見たのはロンドン
のナショナル・ギャラ
リーである。

昨秋の東京旅で四つ
の美術館を訪れた。上
野の東京都美術館で開
催されていたのは「ゴッ
ホ展」巡りゆく日本の
夢」。

あったからか「自
画像」、特に「耳
を切った自画像」
など暗いイメージ
がつきまとう。

ところが、今回
の美術展で、彼が
日本に強い関心と
あこがれを持ち、
「日本を光あふれ
る国」とイメージ

し、晩年、そのイメ
ジに重なる南フランス
のアル地方に移住し
ていたことを知り、イ
メージががらりと変
わった。特にそれを決
定づけたのは彼が浮世
絵を模写した作品を見
たからだ。

「花魁(おいらん)」
は、江戸時代後期に活
躍した溪斎英泉(けい
さいえいせん)の「雲
龍打掛の花魁」を模写
したものである。ゴッ
ホだけでなく、当時の
西欧の巨匠たちは浮世
絵に魅せられていた。

ゴッホといえば「ひ
まわり」を連想する人
が多いと思うが、ゴッ
ホは黄色を好み、一連
の「ひまわり」を見る
と、パリ時代のひまわ
り(三本)は重苦しい
色彩だが、日本をイ
メージしたアルルに移
住して描いたひまわり
(十二本)は明るい黄
色が基調になっている。
こう書くことに詳しく
思うられるかもしれな
いが、絵に無知な私は
いつも美術館の音声ガ
イドを利用し、今回も
これによる知識が多い。
ゴッホのひまわりは
作品によってひまわり
の数が違うが、第五作
目といわれる十五本の
ひまわりは新宿の損保
ジャパン日本興亜美術
館が所有し、当時五十
八億円で購入したとい
う。

ゴッホが日本に強い
関心を持ったせいだ
か、日本人の多くもゴッ
ホの作品を愛し、彼の死
後、ゴッホの友人の医
師の家などを巡礼した
人が多いらしい。

その友の家には三冊
の芳名録があり、二百
四十人余の署名が残さ
れていたという。

アムステルダムを訪
れた時、朝、ゴッホ美
術館前を通ったが、も
う大勢の日本人がい
た。私のコースはアム
ステルダム国立美術館
でフェルメールを見るの
が目的であった。機会
があれば今度はゴッホ
美術館を訪れてみたい。



ゴッホ展のポスター＝浮世絵を模写した作品「花魁」が使われている